

論文

# 宮崎駿の『となりのトトロ』における 「トウモロコシ」のイメージ研究

史 兆 紅

外交学院副教授

A study of corn imagery in Miyazaki Hayao's *My Neighbor Totoro*

SHI Zhaohong

**Abstract:** In the second half of *My Neighbor Totoro*, Mei's act of picking corn by herself and bringing it to her sick mother furthers the plot of the film. Therefore, the significance of this act cannot be overlooked. Using a semiotic approach, combined with historical context, this paper analyzes the intentionality behind Mei's act in *My Neighbor Totoro*. It suggests that the corn implies imageries of China, America, and Korea. Additionally, by investigating the history of popcorn, which is closely related to corn, and analyzing the plot of the film, we can also infer that corn implies images of bomb, immigrants and colonial achievements.

**Keywords:** *My Neighbor Totoro*, semiotics, historical context, corn imagery

宮崎駿の作品にはいつもいろいろな「奇想天外」な世界が満ち溢れている。とりわけ、作品の中で、道具に対しては特別な心を寄せているようである。<sup>1</sup> 代表作としての『となりのトトロ』においてもいろいろな道具が用いられているが、「トウモロコシ」はその一つだと言えよう。それは、メイが失踪するプロットと深くかかわっているためである。また、物語の後半部分のプロットの展開に大きな役割を果たしている。

具体的には、後半部分のプロットとして、サツキとメイが隣のお婆さんといっしょにお婆さんの畑の果実（野菜や穀物など）を取っているシーンがある。メイはお婆さんの力を借りてやっと一本のトウモロコシを取る。そして、サツキも。お婆さんの話によると、お婆さんの畑で取れた野菜などを食べると元気になれるという。

しかし、三人が収穫したものを口にしながら楽しく話しているところで、

お母さんは病状が悪化したため週末に帰らない——という七国山病院からの電報を、メイはお婆さんの孫の勘太から渡された。早速サツキは勘太の案内で村民の電話を借り、大学にいるお父さんに電話をした。夕方、お婆さんが夕飯の支度を手伝うために来た時、サツキはお母さんが死んでしまうことを恐れて泣き出した。メイはそれを見て、お母さんのことを心配してトウモロコシを抱えて家を出た。メイはどうしてもお母さんに帰ってほしいと思い、トウモロコシをお母さんに届けようと決心したのである。

しかし、大人の足でも三時間もかかる遠い病院へ行く道だから、メイは途中で失踪してしまう。サツキがメイを見つけられないため、トトロの助けを求めた。最後に、トトロの猫バスに乗り、サツキは六地藏が立つ傍でメイを発見した。そのまま姉妹二人は猫バスで七国山病院にいるお母さんを訪ねる。

サツキ、メイ、猫バスは、庭にある松の高枝から病室で談笑する両親を見下ろす。また、メイに抱えられていたトウモロコシは、いつの間にかお母さんの病室の窓口の外側に置かれていた。その後、姉妹は安心して猫バスに揺られて自分の家に戻った。

このように、トウモロコシは物語の後半部分を貫く道具として目立つような存在となっている。では、「お母さんへ」と書かれたトウモロコシは一体どのようなイメージを持つのであろう。

## 一、『となりのトトロ』におけるトウモロコシに関する疑問点

このような物語の後半部分のプロットには、三つの疑問がキーポイントとなる。まずは、メイはなぜトウモロコシをお母さんに渡さなければならないと考えたのか。次は、メイはなぜ気に入ったトウモロコシを抱えてお母さんに届けに行く途中で失踪してしまったのか。最後は、サツキはなぜトトロに助けを求めたのか。また、サツキはなぜトトロがメイを見つけて来ると信じていたのか。

まずは、メイはなぜトウモロコシをお母さんに渡さなければならないと考えていたのか、について述べる。物語の内容からわかるように、メイは一番最初から直ちにトウモロコシをお母さんに渡そうとは考えていなかった。お姉さんがじっと泣くばかりの様子を見て初めて、お母さんの病気の重さを感じ、お母さんが死んでしまうことを心配し始めたのである。そこで、隣のお婆さんが話した「婆ちゃんの畑のものは、お日様いっぱい浴びてるからね、

体にいいんだよ」ということを思い出したのである。そこで、お母さんが早く元気になるようにと思い、どうしてもこのトウモロコシをお母さんに渡そうと思ったと考えられる。したがって、メイにとっては、このトウモロコシは自分の手で取ったものであり、お母さんの病気を治せる最も効力のある「薬」なのである。<sup>2</sup>

次に、メイはなぜ気に入ったトウモロコシを抱えてお母さんに届けに行く途中で失踪してしまったのか。メイはどこへ行ったのだろうか。メイはお姉さんと喧嘩してから、トウモロコシを抱きしめ家を出て行った。しかし、大人の足でも三時間かかる遠い道程なので、お姉さんを探す時でさえ村の中で迷ってしまうくらいメイにとっては、病院までの道が分かるはずはない。よって、大きな決心をしたメイはお母さんの病院へ行く道を探す時に失踪したのである。それどころか、サツキが通りすがりの人たちを訪ねた答えからもわかるように、メイは病院へ行く道の逆方向に走って行ってしまったのである。

最後に、サツキはなぜトトロに助けを求めたのか。また、サツキはなぜトトロがメイを見つけて来られると信じていたのか。サツキはメイがいないことに気づいてから、すぐ病院へ行く道に沿ってメイを探したが、村民たちと同じようにメイを見つけられなかった。もと来た道を引き返していくと、勘太に出会い、神池で女の子の小さいサンダルが見つかったと伝えられた。サツキはこれを聞いて神池まで走りだし、お婆さんの手にあるそのサンダルはメイのではないと言い張った。

この時、途方に暮れたサツキは、庭の傍にある塚森の大楠を目にして、かつて出会ったことのあるトトロを思い出した。最後の力を振り絞り、その茂みのトンネルへと走った。トンネルの突き当りで何か躓き転んだと思ったとたん、赤い光の中へ真っ逆さまとなり、トトロの柔らかいお腹の上に落ちた。これで、トトロの力を借りてメイを見つけたのである。

ただし、前にメイがこのトンネルを通して木の穴に落ちたのが無意識的で受身的だとしたら、今回のサツキの回帰は意識的で主動的である。また、トトロに助けをもらった失踪した妹探しは、親たち大人の役目である。しかし、母親は病院に、父親はサツキと電話した後、病状が悪化したお母さんを見舞いに七国山病院に行った。つまり、両親や村中の村民、通行人など誰からも助けられない窮地に陥ったサツキである。この十歳の子どもの無力感が想像

できよう。しかし、サツキは困難に怯んではいなかった。トンネルを抜けて、親代わりのトトロを頼りにしたのである。

## 二、『となりのトトロ』におけるトウモロコシのイメージ

トウモロコシは物語のプロットを展開させる役割を果たしている。次はコードの視点から、歴史真実を背景に、『となりのトトロ』におけるトウモロコシのイメージ、およびメイがトウモロコシをお母さんに贈るという行為のイメージを考察する。

日本語には「トウモロコシ」の漢字表記とその読み仮名は、幾通りかある。具体的には表1のようにまとめた。

表1：「トウモロコシ」の漢字表記とその読み仮名

漢字表記（異称）		読み仮名		中国語における 同一漢字表記の有無
	共通項		共通項	
玉蜀黍	黍	トウモロコシ	(トウ) モロコシ	○
唐唐黍		トウモロコシ		×
唐蜀黍		トウモロコシ		×
南蛮黍		ナンバンキビ	キビ	○
玉黍		タマキビ		○
苞黍		ツトキビ		○
真黍		マキビ		○
高麗黍		コウライキビ		×
高麗		コウライ		×
唐菽		トウマメ	(トウ)	×

これらの漢字表記はそれぞれ異なるが、ルールが一つ存在している。それは、「高麗」と「唐菽」以外は、日本語の読み仮名には基本的に「モロコシ」と「キビ」がつく。また、「高麗」以外は、言葉の中心的漢字は「黍」となっている。ほかに「菽」がある。修飾の部分から見ると、主に「唐」「玉」「南蛮」「高麗」「真」「苞」。その中で、特に注意すべきところは「唐」「南蛮」「高麗」という三つの国のイメージを喚起させる修飾語で、トウモロコシのイメージとしてその方向性を三つの角度から提示していると考えられる。つまり、「唐唐黍・唐蜀黍」「唐菽」からは「唐代の中国」、「南蛮黍」からは「近代の欧米諸国」、「高麗黍」「高麗」からは朝鮮半島を連想させるのではないかと。次は、この考えに沿って、トウモロコシが日本に伝来した歴史などと合わせ、トウモロコシのイメージを分析する。

## (一) トウモロコシの古代中国のイメージ

### 1. 「唐唐黍・唐蜀黍・唐菽」の古代中国のイメージ

「唐唐黍・唐蜀黍」や「唐菽」には「唐」という漢字がつく。そこから、古代中国のイメージが連想できる。また、古代の日本は、舶来品には「唐」字をつける場合が多い。例えば「唐物（からもの）」「唐衣（からころも）」などがある。「唐」をつけると外来のものという意味になる。では、なぜ「トウモロコシ」が「唐唐黍」と表記されるのか。それは、当時中国から伝わった時に、「モロコシ（唐土）」（＝高粱）と似ているため、「唐のモロコシ」と表記されたのである。ここの「唐」は「舶来」の意味になる。<sup>3</sup>しかし、「唐」字の重複を避けるために、「玉蜀黍」と表記が変わったが、読みはそのままになっている。<sup>4</sup>

「モロコシ」と読む漢字は「唐土・唐」「唐黍・蜀黍」と二組ある。「唐土・唐」は古代日本が中国に対する称呼で、「唐黍・蜀黍」は「高粱」の意味になる。

表2：「モロコシ」の漢字と意味

「モロコシ」の漢字	「モロコシ」の意味
1. 唐土・唐	1. 唐土、唐
2. 唐黍・蜀黍	2. 高粱

表2からわかるように、「唐唐黍・唐蜀黍」には実は二重の「中国」の意味が含まれている。そのため、「トウモロコシ」という言葉には中国との密接で不可分な関係性を持つことがわかる。つまり、「トウモロコシ」というコードには古代中国のイメージが含まれていることがわかる。

### 2. 「キビ」とトウモロコシの中日交流のイメージ

日本語にはトウモロコシの読み方には表1で示したように「キビ」という発音があるものが多い。特に、トウモロコシの別称には「唐黍」「真黍」がある。これによって、日本の奈良時代の遣唐使・吉備真備を連想させる。吉備真備という名前には「黍の中の真の黍」という意味が読み取れるためである。吉備真備は717年遣唐使留学生として入唐、経史、天文、軍事、音楽などの知識を積み、帰国した。『大衍曆経』、楽書、楽器、武器なども伝えたとされる。「唐礼」などの唐文化が日本への紹介に貢献した。<sup>5</sup>ここからはトウモロコシから古代中日両国の友好交流のイメージが浮き彫りに見えるのである。

## (二) トウモロコシの欧米諸国のイメージ

### 1. 「南蛮黍」の欧米諸国のイメージ

トウモロコシの漢字表記からもわかるように、この農作物は外来種で、日本固有のものではない。実は、トウモロコシといえば、その原産地である北米大陸について言及することは避けられない。また、トウモロコシが世界中に普及したのは大航海時代を遡る。コロンブスが新大陸を発見し、北米大陸原産のトウモロコシ(＝コーン)を英国に持ち帰ることは大航海の歴史的意義を提示する。それでは、なぜ「南蛮黍」がトウモロコシという漢字表記になったか。『広辞苑』によると、南蛮は「室町末期から江戸時代にかけて、ジャム・ルソン・ジャワーその他南洋諸島の称。また、その地を經由して渡来した西欧の人や品物。特にオランダを紅毛というのに対してポルトガル・スペインを言う」<sup>6</sup>。そのため、トウモロコシはまた「南蛮黍」という別称があり、トウモロコシは、ポルトガル人によって十六世紀の日本に伝えられた<sup>7</sup>物だと考えられる。よって、日本ではトウモロコシは欧米から渡来したイメージがある。

トウモロコシが日本で本格的に栽培・流通するようになったのは、明治時代初期で、北海道開拓に伴い、北海道農事試験場がスイートコーン(甘味種)である「ゴールデンバンタム」という品種をアメリカから導入したことが始まりである<sup>8</sup>。よって、現代日本という文脈でトウモロコシのイメージを考えればアメリカと結び付きやすい。また、戦後アメリカの日本占領とその影響でトウモロコシが日本の日常消費物となったのである。現在、日本のトウモロコシの消費量は世界の第六位を占める<sup>9</sup>。トウモロコシの世界最大の輸入国である日本は、1530万(農林水産省「農林水産物輸出入概況」2017年)を輸入し、このうち80%近くをアメリカに依存しており、そのほとんどが飼料用である<sup>10</sup>。これによって、作品の中にはトウモロコシはアメリカのイメージもあることがわかる。

### 2. ポップコーンとトウモロコシの爆弾イメージ

トウモロコシともなると、トウモロコシの品種名＝爆裂種(ポップ種)<sup>11</sup>から、その実をはじけさせ、バター・塩で味付けしたスナック菓子であるポップコーンを言及しなければならない。十九世紀前半、北米の捕鯨漁師がチリへ行った時、当地で一種の面白い食べ方を発見した。それは、トウモロコシを高温下に置き、内部の強圧により澱粉の芯が外側にはじけて硬い果皮にぶ

つかり、果皮を爆発させるものであった。これはポップコーンそのものである。その後、ポップコーンは北米大陸で大流行した。数十年後に蒸気式ポップコーン機の発明により、このスナックの流行度がさらに上がった。<sup>12</sup>第二次世界大戦の爆発で、フィリピンなどからの糖類輸入が切断されたため、アメリカにおける糖の原料が足りなくなり、配給制が実施された。これによって、競合するスナック菓子や炭酸飲料などはともに糖類が不足し、ポップコーンはその優位性を見せてきた。<sup>13</sup>

ポップコーンはチリの発祥である。しかし、映画を見ながらポップコーンを食べることは、まさにアメリカの風俗である。これには歴史的な原因がある。<sup>14</sup>1945年まで、ポップコーンと映画は緊密な関連性を保ち、アメリカのポップコーン産業はハリウッド映画とともに、その影響が前例のない絶頂期に達した<sup>15</sup>のである。

戦後日本の動きから見ると、日本の社会・文化・生活は日増しに欧米化した。飲食の習慣やライフスタイルから、物事に対する考え方、やり方まで、いずれも大きな変化を遂げた。<sup>16</sup>日本にポップコーンが入ってきたのは第二次世界大戦の後、アメリカ軍が駐留するようになってからという説が一般的である。<sup>17</sup>1957年（昭和32年）になると国内初のポップコーン製造会社マイクポップコーンが設立され、日本初となる袋入りポップコーン「マイクポップコーン」の販売が開始される。映画館内での販売もスタートし、日本でもポップコーンが着々と普及していった。<sup>18</sup>

日本語では「ポップコーン」を表すのに「爆弾」という言葉が用いられる場合がある。下記の辞書から「爆弾」の意味を確認した結果、「ポップコーン」の日本語の別称は「爆弾・爆弾あられ」であることがわかった。『広辞苑』にある「爆弾」の解釈は四つあり、その三番目の意味は「米・トウモロコシなどを加熱加圧して破裂させた食品。爆弾あられ」<sup>19</sup>となっている。『デジタル大辞泉』「爆弾」の解説には、「5 トウモロコシ・米などの穀粒を加熱・加圧してはじけさせた食品。爆弾あられ。」<sup>20</sup>とある。『精選版 日本国語大辞典』「爆弾」の解説には、「③ 乾燥させたトウモロコシの粒を煎って破裂させた食品。煎餅状にしたものもある。ポップコーン。」<sup>21</sup>とある。また、トウモロコシの形体上の特徴からも爆弾との類似性が見られる。よって、『となりのトトロ』の中のトウモロコシは爆弾のイメージがあるのではないかと考えられる。

### (三) トウモロコシの朝鮮のイメージ

#### 1. 「高麗黍」とトウモロコシの朝鮮のイメージ

日本語では「高麗黍」「高麗」がトウモロコシを表すことができる。「高麗」は古代日本による朝鮮の別称である。この表記から見ると、日本のトウモロコシは朝鮮半島と極めて密接な関係があることがわかる。これによって、『となりのトトロ』に現れるトウモロコシは朝鮮半島のイメージはないかと考えられるようになったのである。

#### 2. トウモロコシの移民・植民成果のイメージ

以上の分析は、主にトウモロコシの日本語の漢字表記やその意味、またその形体上の特徴から、それが指し示す国のイメージおよび爆弾のイメージを分析した。このほかに、物語のプロットと歴史背景などと関連して、トウモロコシの移民・植民成果のイメージを分析することもできると考える。

サツキ姉妹はお婆さんの畑でトウモロコシだけを収穫したのみならず、また、ほかにキュウリ（胡瓜）、ナス（茄）、トマト（別称：蕃茄・赤茄子・珊瑚珠茄子など）、インゲン豆（隠元豆）などいろいろな野菜や果物などを取った。二人はここでキュウリ（「果実」）を食べながら豊作の喜びを味わう。しかし、これらの野菜や穀物は外来品種ばかりで、日本固有のものではないことはその表記からも見て取れるのである。では、なぜ隣のお婆さんの畑にこれほど多くの外来品種の野菜などがあったのか。東京郊外にこのようなところがある可能性はないとは言えないが、ここはいったい東京郊外のどこをイメージしているのか。

サツキとメイが冷やした取れ立てのキュウリを口にしながらお婆さんと楽しく話している場面は印象深いのである。日本の「お化け」の文化からわかるように、サツキ姉妹が口にしたキュウリは想像上の妖怪「河童」の大好物であると同時に、その読み方の「カッパ」は、カッパとキュウリを巡るさまざまなエピソードにちなんでキュウリの俗称となっている。このため、ここは日本ではなく、芥川龍之介の『河童』（1927年）で描かれた河童国という想像上の国であることが考えられる。これは、サツキ一家が引っ越しをした時、三輪車がまずは田畑や茶畑を通り、それから橋を渡り、トトロがいる森に入り、最後に自分たちの家に到着したのである。途中で渡ったその橋の名前が「河童橋」と明記されているところからも証拠付けられる。ここで、サツキ一家の引っ越しの行為を外国への移動と看做されるとなると、西洋史上のメイ



フラワー号「Mayflower」の移民行為及び日本の1930年代の対外開拓史と移民史と対応しているのではないかと考えられる。

上述したトウモロコシと欧米の関連性などと合わせてみると、サツキ姉妹（メイフラワー）とお婆さんと楽しそうに付き合う場面などから、メイフラワー号が北米大陸に到着した新移民と先住民との友好関係が連想できる。イギリスの新移民がメイフラワー号に乗って北米大陸に漂着したのは1620年11月21日である。それ以降、アメリカに根を下ろし、当時の先住民と仲良く付き合った。その年の冬、生活面においてさまざまな困難にぶつかった時、新移民は原住民に生活必需品を送り、その見返りに狩猟や魚を捕る技術、トウモロコシやカボチャなどの栽培技術を教えてもらった。先住民の手助けを得るなどして、野菜などの農作物を収穫したのである。サツキとメイが隣のお婆さんの畑でその助けを得て取ったトウモロコシは、まさにこれと同じようなイメージが読み取れるのである。

そして、「高麗黍」の分析でわかるように、トウモロコシ（高麗黍）には朝鮮半島のイメージがあるため、日本の植民地だった朝鮮を背景にして物語が進行しているのではないかと推測できる。日本の1930年代前後の移民の歴史などを合わせて具体的に考えてみると、日本はまず朝鮮半島を植民地化し、その後そこを足掛かりとしてアジア大陸への移民や植民が始まったと考えられる。これは、日本の1930年代の対外開拓史と移民史と対応していると考えられる。引っ越し行為が暗示する移民のイメージ、そしてサツキ姉妹が豊作だったお婆さんの畑で取れた野菜などの農作物から、1930代における日本の海外移民による収穫が連想できるのである。

表3：『となりのトトロ』にある関連表現のイメージ

映画中の関連表現	イメージ
サツキ・メイの名前およびサツキ一家の引っ越し行為と結果	イギリスのメイフラワー号の北米大陸移民 1930年代日本のアジア大陸の移民、植民
トウモロコシの漢字表記およびその伝来の過程	古代中国、欧米、朝鮮などの各国との交流
サツキ姉妹が夏休みに隣のお婆さんの畑で手伝いをする	メイフラワー号に乗って北米大陸に到着したイギリスの新移民と当地の先住民と仲良く付き合う 近代日本の新移民が移民先の隣人と仲良く付き合う
お婆さんの畑でトウモロコシなどの穀物を取り、キュウリなどの野菜を味わう	イギリスの新移民による北米大陸での豊作 1930年代日本の大陸移民により豊富な成果を収めた

以上は、トウモロコシの漢字表記や、その意味およびその形体などの視点から、また、その歴史の背景と合わせて『となりのトトロ』におけるトウモロコシのイメージの仮説を五つほど出した。次は、これらのイメージの仮説を実証するために、さらにメイがトウモロコシをお母さんに贈る行為、およびその他関連事件などを中心に考察する必要があると思われる。

### 三、メイがトウモロコシをお母さんに贈るイメージ

メイが自分で取ったトウモロコシを、どうしてもお母さんに届けようと思ったのは、隣のお婆さんの話を信じたためであろう。しかし、上述したトウモロコシのイメージ（古代中国、欧米諸国、朝鮮のイメージおよび移民の「果実」（成果）のイメージ、爆弾のイメージ）と合わせて考えれば、メイのそのような行動にはどのような深層意味が含まれているか。次は、メイが神池で溺れたと勘違いした村民たちの反応、メイが見つかった場所という二つの細部構造からこれについて分析する。

神池で女の子のサンダルが発見されたが、これはメイのサンダルと似ているため、お婆さんは村中の人々を集めて神池でメイを探させる。サツキが神池に着いてこのサンダルを見て、メイのではないと否定した。これで村中の人々はひとまず安心した。

途方に暮れたサツキは最後にトトロに頼むことにした。トトロの猫バスに乗ってメイを見つけたが、メイが最後に見つかった場所は非常に大事なプロットである。その場所は六地藏<sup>22</sup>が立っているところである。「地藏菩薩は大地に匹敵する広大な功德を胎とする菩薩。弥勒が出現するまでの無仏世におけるその代役とされる。特に六道<sup>23</sup>輪廻の中でも地獄に苦しむ者を抜苦与樂する代表的存在である。こうした信仰が日本に伝わり、地獄への恐怖を解消するものとして広く民衆に浸透した。また六道を巡って衆生を濟度する姿から、六地藏信仰も活発となった。」<sup>24</sup>「そこでは、地藏は弱者を救うとする信仰から、子どもの守護者の性格が付加され、子安地藏の信仰に結びついてゆく。また地藏は道祖神信仰とも習合し、現世と他界の境界を守護する塞の神としての性格も帯びるようになる。」<sup>25</sup>これらの内容を踏まえ、メイが座っているところに六地藏が立っているということから、失踪したメイは結局地獄の入り口にたどり着いたことがわかる。そこで守護神に助けられ、死ぬことを免れたのである。

また、これに対してもう一つの読み方がある。『地藏本願経』<sup>26</sup>の話からわかるように、地藏菩薩は過去に無数劫（むしゅこう）の親孝行をした娘で、名前は光目であった。母親は魚の卵を食べるのが好きで、死ぬ前に殺害の重罪を犯し、邪悪な領域に陥った。光目女は一心念仏し、敬意を表して供物をささげ、誠実さと親孝行で母親を地獄の苦しみから救った。後に「衆生度尽、方証菩提、地獄未空、誓不成仏」と誓って、その真の功德を隠し、神通力や本願力を発揮し、至る所に現れ説法して、衆生を救済している。しかし娘としてのメイは、母親を助けたかったが、助けることはできなかった。そこには、二つのことが考えられる。まずは、母親が病気（風邪＝結核＝不治の病）で危篤になり、家に帰られなかったこと、メイの母親は以前に深刻な罪を犯し今地獄にいて、これは母親の死の隠喩である。次は、娘のメイの立場から見ると、危篤の母親を救いたいと考えた薬（方法）は、隣人（他人）の畑で取ったものであるため。これは独善的な行動で、衆生を済度する光目女の行動とは対照的であり、結果的には母親を救うことはできない。自己中心のメイのイメージが浮き彫りになったのは、もう一つのプロットからも見ることができる。それは、トウモロコシを抱えて村中でサツキを探すときに、道に迷ってしまい、一匹の山羊に出会ったシーンだ。その飢える山羊（山羊ママ）がメイのトウモロコシを求めようとした時に、お母さんにあげるものを絶対に他者にあげないというメイの強い反応が印象的である。これは、『蜘蛛の糸』（芥川竜之介1918年）に描かれた犍陀多（かんだた）が蜘蛛の糸を「己のものだ」と喚いたとたんに糸が切れて再び地獄に落ちてしまうシーンを連想させる。

表4：地藏菩薩が現れたイメージ

地藏菩薩のイメージ	メイのイメージ
この世とあの世の境にある守護神	迷子になったメイは死を免れた
水子の守護神としての地藏菩薩	入水したメイは死んだ
功德によって重罪を犯した母親を地獄から救済した	自己中心のメイは危篤に陥ったお母さんを救助できなかった。さらに、お母さんの病院に行く途中、自ら迷路に立ち止まったのである
地藏菩薩（光目女）の本願力	メイの利己心

よって、メイが六地藏の傍にいて、四つの象徴的意味が含まれていると考えられる。第一に、メイは地獄の入り口で守護神に救われた。第二

に、道祖神の視点から見ると、地藏菩薩は水子の守護神という信仰から、メイはすでに死んでいる。第三に、メイの母親は不治の病にかかっている。これは、重罪を犯し、地獄で苦しんでいることを隠喩している。第四に、メイは利己心のみで、本願力が欠けているため、母親を救済することはできない。

ここまでの分析を踏まえてみると、メイがトウモロコシをお母さんに贈るという行為には二つの意味が含まれていると考えられる。まずは、母親（日本）を救う願いを実現させる正しい方法は何か、という切実な問題提起である。次は、このプロットには日本あるいは作者の戦争体験の回想と重なっている部分はないか、と考えられる。では、この二つのことに焦点を当てて具体的に分析しよう。

### （一）中日友好交流の願望のイメージ

トウモロコシには古代中国のイメージがあることは論述済みである。吉備真備という名前には「黍の中の真の黍」という意味が読み取れるため、このトウモロコシ（「唐黍」＝「真黍」＝「吉備真備」）はお母さんに届けようとしているもので、また、お母さんを救うことができる効き薬だとメイは考えている。

メイがトウモロコシをお母さんに届けようとするプロットから考えてみれば、その行為はまるで遣唐使としての吉備真備が中日友好交流を推進したようである。よって、メイがお母さんに届けようとするトウモロコシから古代中日両国の友好交流のイメージが浮き彫りに見えるのである。この作品には、まさにこのような未来に対する美しい願望が潜んでいるのではないか。

### （二）日本の戦争体験のイメージ

物語の最後の段階で、お母さんは病状が悪化して家に帰れないことを知り、お母さんを救うため、メイは何も考えずにトウモロコシを抱えて家を出た。しかし、お地藏様が水子の守護神であるとしてここのプロットを見れば、メイのお母さんを救いたい気持ちが自分の失踪あるいは自分の死亡をもたらしたと考えられる。サツキがメイを探す時から、空は真っ赤に染まったような夕焼けでいっぱいになる。メイとサツキの一生懸命さが感じられると同時に、夕日の最後の時刻に沿って、血と力を尽くして母親を救う思いが空にこもっているように見える。村民たちに神池から掬い上げられたサンダルにもある

リアルさが観察できる。「サンたる」は語呂合わせで「サンである」の意味が読み取れるので、太陽であると察することができる。このサンダルが水に落ちたことは「夕日が暮れる」意味と重なっているのである。と同時に、サンダルは夏の履物の意味から、語呂合わせで見ると「一番暑い季節の苦痛」もこのサンダルの象徴性から読み取れる。それは、トウモロコシがお母さんに届けられていたら、サンダルが神池に落ちた時と同じように、これによってメイの苦痛が解消できるとメイ（あるいは作者）は望んでいたためであろう。これは、メイの命がけの取り組みである。ここからは日本の先の大戦のイメージがはっきりと読み取れる。実は、よく見ると、メイは最後までずっとサンダルを履いたままである。よって、これは願望ではなく現実であることを物語っているのであろう。

例えば、メイは大人の足でも三時間かかる道を知るわけもなく、サツキと喧嘩してまでして病院へ行く途中で迷子になってしまう。ここでメイの自分の意志や態度が象徴的なものになる。軽率な行動では、お母さんを救うどころか自分まで迷路に立ち入り、さらに神池に落ちてしまった結果になるのである。抱えていたトウモロコシは植民地での収穫物の象徴で、これを危篤のお母さんに捧げたいのである。しかし、これは間違った行動である。メイが病院への道を逆の方向へ走ったシーン（トウモロコシを抱えるメイが後ろ姿で病院への道を走るシーン）がある。それと同じように、また光目女である地藏菩薩の行動と逆であると同じように、神池や水に墜落する運命に遭わせる。つまり、トウモロコシを抱えるメイは、日本海軍によるハワイ真珠湾への奇襲での、爆弾を搭載した戦闘機による体当たり攻撃の象徴だったのでないか。この奇襲はアメリカの参戦をもたらした。さらに、これはそれ以降敗戦までの日本の「特攻」や「人間爆弾」などの作戦法ともつながる。つまり、ここはトウモロコシの爆弾のイメージとなり、また、これにより、その後のアメリカによる大空襲や原爆の投下などをもたらした象徴にもなってしまう。

さらに、物語の最後のプロットにある重要なシーンが印象的である。それは、トウモロコシがお母さんのいる病室の窓側に置かれている場面である。ここからは、日本の従来の対外窓口である長崎のことを想起させる。1570年代、日本はヨーロッパとの交流が始まり、ポルトガル人といわゆる南蛮貿易を行ったが、肥前（現在の長崎県）の平戸、長崎、と豊後の府内（同大分市）

などは「南蛮貿易の中心」地であった。<sup>27</sup> トウモロコシを病院の窓口に置くということは、原子爆弾を日本の窓口である長崎に投下したことを象徴しているのではないか。また、これと同時に、広島は古代の国名は「吉備の国」であることから、トウモロコシの「玉黍」「南蛮黍」などの別称のコードからも広島のことを連想できる。これは、アメリカが戦争を早く終わらせるために広島に投下した原子爆弾をイメージさせる。

最後に、これと関連しているもう一つのプロットが印象的である。それは、トトロたちの手助けにより、メイの庭に蒔かれた木の実が芽生え、やがて一本の大きな木に生長したプロットである。宮崎駿がインタビューで、『となりのトトロ』に迅速に生長した一本の大木は森の中の原子爆弾であると指摘したことがある。<sup>28</sup> これは、上述した分析をさらに根拠付ける。また同時にトウモロコシは、『となりのトトロ』におけるアメリカという国のイメージ、移民・植民の「果実」のイメージ、および爆弾のイメージを証拠付けるものでもある。

表5：トウモロコシ、およびメイがそれをお母さんに贈る行為のイメージ

トウモロコシのイメージ	メイがトウモロコシを母親に贈る行為のイメージ	参考（表現）
古代中国 日本の吉備真備	プラスイメージ： 中日友好交流への願望	唐黍・真黍＝唐の吉備真備
朝鮮 その他の日本の植民地域	マイナスイメージ： 日本のアジア大陸の移民・植民の成果を国に捧げる（間違った行動）	自分で取ったトウモロコシを母親にあげたいというメイの思い込み
アメリカ 日本の広島・長崎	マイナスイメージ： 日本の真珠湾奇襲（爆弾機）（間違った行動） 日本の本土上の戦争体験（大空襲・被爆など）（間違った行動による報い）	自分でとったトウモロコシで母親を救いたいというメイの思い込み 窓口に置かれた吉備（庭で急生長した木々と大木）

## 結び

宮崎駿の作品は、道具の活用を通してより深い思想と理念が伝わっているものが多い。宮崎自身も次のような考えを述べている。通俗的な作品は、内容が浅くても感情がこもるものでなければならない。その入り口の「敷居」

は低くて広い、誰でも越えることができる。しかし、出口の「敷居」は高く、粗末な代替品ではなく、浄化されたものでなければならない。または低俗なものや自分の意志を強要して付け加えたものにしてはいけない。ディズニーの作品は、その入り口と出口は高さや広さが同じものである。それは観衆を見下ろすものだから宮崎が気に入らないという<sup>29</sup>。つまり、宮崎の作品は高さや広さを追及しているものだと言えよう。したがって、宮崎の作品で用いられた道具の深い意味を探求する必要があると考えられる。

以上の分析でわかるように、『となりのトトロ』に用いられた道具（コード）であるトウモロコシは、プロットを展開させる役目を大いに発揮した。ゆえにトウモロコシという道具に対する深層的な意味の分析を通して、『となりのトトロ』の深い意味およびそのイメージを窺うことができる。コードとしてのトウモロコシを見てみると、そこに暗示する古代中国、欧米諸国（とりわけアメリカ）、朝鮮などの国に関する国のイメージ、移民・殖民の成果および爆弾など物事に関するイメージなどを垣間見ることができる。さらに、『となりのトトロ』に描かれている歴史的背景が浮き彫りになってくる。と同時に、子供たちが抱える母親救済の願望を実現させるためのプラスの息込みも、手に取るようにはっきりとわかる。

#### 注：

<sup>1</sup> 陳雷：「虚与実：谈宮崎駿动画作品中的道具设计」（虚と実：宮崎駿アニメ映画における道具の設計について）。『裝飾』（裝飾）第7期，2020年，第84頁。

<sup>2</sup> 宮崎駿，黄穎凡・章沢儀訳：『出发点1979-1996』（出发点1979-1996），東販出版，2006年，第486頁。

<sup>3</sup> 『語源由来辞典』：「トウモロコシ / 玉蜀黍 / とうもろこし」，<https://gogen-yurai.jp/toumorokoshi/>（2021年12月3日検索）。

<sup>4</sup> 同上。

<sup>5</sup> 吳廷璆：『日本史』，南開大学出版社，2006年，第81頁 - 第82頁。

<sup>6</sup> 『広辞苑』第五版、岩波書店。

<sup>7</sup> 『語源由来辞典』：「トウモロコシ / 玉蜀黍 / とうもろこし」，<https://gogen-yurai.jp/toumorokoshi/>（2021年12月3日検索）。

<sup>8</sup> 野菜大図鑑：「とうもろこしが日本に伝来したのはいつ？とうもろこしの産地は？」，<https://vegetables01.xyz/archives/9740>，（2022年1月17日検索）。

<sup>9</sup> 同上。

<sup>10</sup> 「北の恵みを食卓に北海道のスイートコーン」：<https://www.kewpie.com/newsrelease/>

items/2019/items/pdf/2019/102.pdf, (2022年1月17日検索)。

11. ポップコーンに使われるのは、トウモロコシの中でも「爆裂種」と呼ばれるタイプのもの。爆裂種は「*Zea mays everta* (Z.m.L.var.everta)」という学名を持っていますが、これは「トウモロコシ属 (*Zea*)」「トウモロコシ種 (*Z. mays*)」に分類されるという意味を持つもの。

12. 李建忠：「爆米花和电影院的不解之缘」（ポップコーンと映画館の切れぬ縁），『初中生学习指导』（中学生学习指导）第24期，2019年，第60頁。

13. 同上，第61頁。

14. 同上，第60頁。

15. 同上，第61頁。

16. 呉廷瑒：『日本史』，南開大学出版社，2006年，第1160頁。

17. 「ポップコーンの起源と歴史」：<https://plustrivia.com/originfoods/816/#i-7>，(2022年1月17日検索)。

18. 同上，(2022年1月17日検索)。

19. 『広辞苑・逆引き広辞苑』（第五版）：「爆弾」による。岩波書店。

20. 爆弾とは - コトバンク ([kotobank.jp](http://kotobank.jp))：『デジタル大辞泉』，小学館。（『デジタル大辞泉』は30万語（2020年8月現在）を収録、言葉の集大成といえる大型国語辞典。年3回。定期更新を行い、最新の項目と日々修正される最新のデータを提供しています。固有名詞辞典『大辞泉プラス』（10万6,600語）と併せ、幅広いジャンルから言葉を収録しています。監修：松村明編集委員：池上秋彦、金田弘、杉崎一雄、鈴木丹士郎、中嶋尚、林巨樹、飛田良文編集協力：田中牧郎、曾根脩（C）Shogakukan Inc.）

21. 爆弾とは - コトバンク ([kotobank.jp](http://kotobank.jp))：『精選版 日本国語大辞典』。（『精選版 日本国語大辞典』は40年以上の年月と3000人を超える専門家の協力を得て完成した、日本が誇る最大の国語辞典『日本国語大辞典 第二版（全13巻＋別巻）』を収録語30万項目・約30万用例に精選・凝縮してまとめた辞典です。（C）Shogakukan Inc.）

22. 六地藏：檀陀地藏・宝珠地藏・宝印地藏・持地地藏・除蓋障地藏・日光地藏などと呼ばれる。

23. 六道：餓鬼・畜生・地獄・人道・修羅・天道の6つの世界。

24. 地藏菩薩 - 新纂浄土宗大辞典 (<http://jodoshuzensho.jp/dajiten/index.php/> 地藏菩薩) (2022年1月18日検索)。

25. 地藏信仰 - 新纂浄土宗大辞典 (<http://jodoshuzensho.jp/dajiten/index.php/%E5%9C%B0%E8%94%B5%E4%BF%A1%E4%BB%B0>) (2022年1月18日検索)。

26. 『地藏経（地藏菩薩本愿経）』：「第01品 切利天宮神通」と「第04品 閻浮衆生業感」に参照。

27. 呉廷瑒：『日本史』，南開大学出版社，2006年，第197頁 - 第198頁。

28. 宮崎駿，黄穎凡・章沢儀訳：『出发点1979-1996』（出发点1979-1996），東販出版，2006年，第475頁。

29. 同上，第88頁。